

# とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都大田区池上 8 丁目 1 番 3 号
園名	アスク池上保育園

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

国旗（外国）

<テーマの設定理由>

運動会の取り組みの中で、国旗に興味を抱いている子どもが増えているため。

## 2. 活動スケジュール

11 月から 3 月まで行い、月に 1 回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにした。その時点での子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにした。

《3・4・5 歳》

11 月：日本と外国の違いを知ろう

12 月：国旗って何だろう・国旗を描いてみよう

1 月：旗って何だろう・どんな模様があるかな？

2 月：描いた国旗を英語で発表してみよう

3 月覚えた国旗の色を塗ってみよう

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

- ・国旗一覧表・・・保育室に掲示し、日常の中でも国旗に触れる機会を作るため
- ・国旗・ことばあそび絵本・・・子どもたちが自分で気になったことなどを自ら調べたり、国旗についての知識をより深められるよう使用。
- ・地球儀・・・様々な国の場所や日本との位置関係、国土の形や、名産物や有名なものに興味をもち、調べたり国旗や世界についてイメージを膨らませるために使用
- ・国旗カルタ・・・遊びをくり返していく中で、国名を覚えたり国旗や国についての知識を得られるよう使用した。
- ・国旗の塗り絵／色鉛筆・・・国旗に使われている色や形により細かく気づいたり、自分なりに感じたこと・考えたものを表現するために使用。
- ・世界地図パズル・・・国名や国の位置関係、世界の気候・世界遺産など遊びを通して興味関心をより深めるために使用。

## 4. 探究活動の実践

### 【3歳児実施分】

**問いを考える：** 子どもたちが日本と他国の国旗を見比べている。日本国旗とアメリカの国旗を見比べて「星がある」「青のしましまがある」「日本は赤今あるだけ」などなど特徴を捉える。他にもアルファベットと日本語の形を見比べる。形や文の長さなど見比べて「何でこの字を使うのかな？」と疑問を持つ。結論は見つからず。

その後は日本国旗の日の丸に焦点を当てる。なぜ、赤丸なのか、何を表しているのか問いかける。子どもたちに保育者や保護者、兄弟 国旗図鑑や国旗カルタから知識を得て答えを導くことが出来た。太陽がシンボルになっていることを理解すると「太陽って丸いのか？」新たに疑問を持ち、屋上に行き観察に行く。観察の中で「丸だけじゃない」「ちくちくしてる」「赤じゃなくて黄色」などなど観察して気づいたことを知らせる。観察後、他国の国旗集を見て様々な太陽の形があることに気づく。観察した太陽を絵で表し、一人ひとり太陽の見え方に違いがあることを知る。

**探究活動の様子：** 外国語ということで興味関心があまり見られずにいたが、国旗を見せると探求心が芽生えた。特に自国の国旗に興味を持ち「何で赤い丸なの？」「星を使わないの」「青とかピンクとか」などなど疑問がたくさんあった。実際に日本国旗のシンボルマークである太陽の観察では子どもたちが晴れの日に空を見上げる様子がたくさんあった。見え方によっては「これ（マケドニア）みたいにちくちくがある」「今日の太陽はこれ（アルゼンチン）に似ているよ」他にも「夕方に見た太陽はね、赤じゃなくてオレンジだったよ」などなど伝えてくれる。

**ふりかえり（保育士の気づき）：** 自国と他国の国旗を知ることで子どもたちは自分の国の国旗の意味を少し理解する・知るきっかけになった。園にある絵本や国旗カルタなど玩具の他に身近な人や大人に聞き、探求心をもつことができた。また、子どもたちが観察して言葉や園など表現する力が備わった。自分が感じた・見たものを伸び伸びと表現することで達成感と新たな知識を得ることができ、良い体験をした。

### 【4歳児実施分】

**問いを考える：** 日本とアメリカの文化の違いを、イラストで知ることができ、他にもたくさん国があることに気づく。それぞれの国に『国旗』というものがあり、国旗とは何かを問いかけ保育者と一緒に考えていった。また、様々な国旗を知ること、どんな色を使っているのか、どんなデザインで描かれているのかに興味を示していた。

**探究活動の様子：** 日本以外にも様々な国があることを知り、有名な野球選手が住んでいることや、家族で旅行に行ったことなど日常の会話から広がっていった。『国旗って何だろうね』と問いかけると「住んでいる場所が分かるもの」「『ハタ』のことだよね」とよく理解している子が多かった。「近くで国旗を見てみたい」という子がいたため、イラストを壁に貼っていつでも見えるようにしておく、「この色かわいいね」「動物がついてるよ」と色やデザインに着目していた。国旗のカルタを見本にしながらか真似して描く活動を行い、気に入ったデザインの国旗の名前を覚える楽しさにも繋がっていた。キャストの時間に行った国旗のぬりえや自由に国旗のデザインを描く活動にも積極的に参加している。「ここは赤だよね」「赤って英語で何て言うんだっけ」と色の英単語にも関心を示し、講師とのやりとりも増えていった。国旗をデザインする時間は特に集中して行っており、ハートや電車、好きなキャラクターなど自分好みの国旗が出来上がることに喜んで、「もっとかいてみたい」「次はあれをかこうかな」と創造する楽しさも味わっていた。

**ふりかえり（保育士の気づき）：** 違う国の言葉やその意味を伝えていくことに難しさを感じたが、国旗にフォーカスし、お絵描きなどの好きな遊びを取り入れることで、子どもたちも楽しく取り組んでいた。普段テレビやニュースなどで耳にしても何となくしか理解していなかったことが、一緒に考えていくことで「有名な野球選手がいる」「どうして違う国にいるんだろう」と、様々な気づきや疑問に繋がっていた。新たな興味、関心を広げることができたのでよかった。

### 【5歳児実施分】

**問いを考える：** 国旗のみならず、日本とアメリカ、日本とブラジルなどを題材にどんな食べ物があるかな？あったかいところかなさむいところかな？と文化や気候に関する問いかけをしながら国の文化の違いなどについて触れていった。また、アメリカの国旗の星の数に注目した子がおり、アメリカの星の数は何個だろう？なんで51個なんだろう？などと、アメリカのみならず子どもたちの疑問をひとつずつ拾いながら、全体に問いかけ、みんなで考えてみたり国旗の意味をグループごとに調べながら、子どもたち自身で探求していけるよう興味に合わせた問いかけをした。

**探究活動の様子：** まずは日本とアメリカの文化の違いを知り、日本以外にも国があることや特色を知った子どもたち。「中国は英語じゃない言葉なんだって。お母さんが言ってたよ」と言語の違いを教えてくれた子もいたり、英語講師には国の呼び方を教えてもらい「アルゼンチンじゃなくてアルゼンティーナっていうんだね」と英語での呼び方の違いを知った。自由遊びの時間には、英語講師に教えてもらった国がどこにあるのか地球儀で探しながら、スウェーデンのところには、スキージャンプや雪のイラストが書いてあり、「この辺は寒いんだね」とヨーロッパの特徴を捉えながら知識を増やしていく子どもたちの姿が見られた。国旗一覧表で、いろんな国の国旗を見ていると同じマークが使われていたり、月のイラストが共通していることを発見した子もいて、保育者と一緒に国旗絵本で調べ、月のデザインはイスラム教にとって「星」と「月」が神聖なものとして扱われていることを知り、月に込められた願いや思いがあることを発見した。英語講師との活動では、自分の旗を描く活動を行い、色や形に意味があることを知った子どもたちは、「僕は海が好きだから周りを青にする！」「ピンクを使っている国はなかったけど、幸せっていう意味で使ってみようかな」と自分たちで描いた国旗にも、一つ一つの色やイラストに願いや思いを込めている子が多くいた。また、国旗について探求していくにつれて、自治問題にも興味を持ち始める姿もあり、ニュースで見たことに対して気になっていることを全体の前に出て発表してくれた子もいて、日常でも世界へ目を向けて興味関心を深めているようだった。

### ふりかえり（保育士の気づき）：

今まで興味を持っていなかった国旗だったが、探求を重ねていくにつれて自分たちで地球儀と絵本を活用して、さらに気になったことがあると保育者に質問したり、自ら一緒に調べたりしながら自由時間にも知識を深めていた。国旗の模様から異国の文化に興味を持ち、そこから発展していき自治問題にも目を向けた子は、家で調べてきて全員に共有したりと、発信する楽しさも経験できていた。異国について知っていくうちに、自国の良さにも気づいており貴重な経験になったようだった。

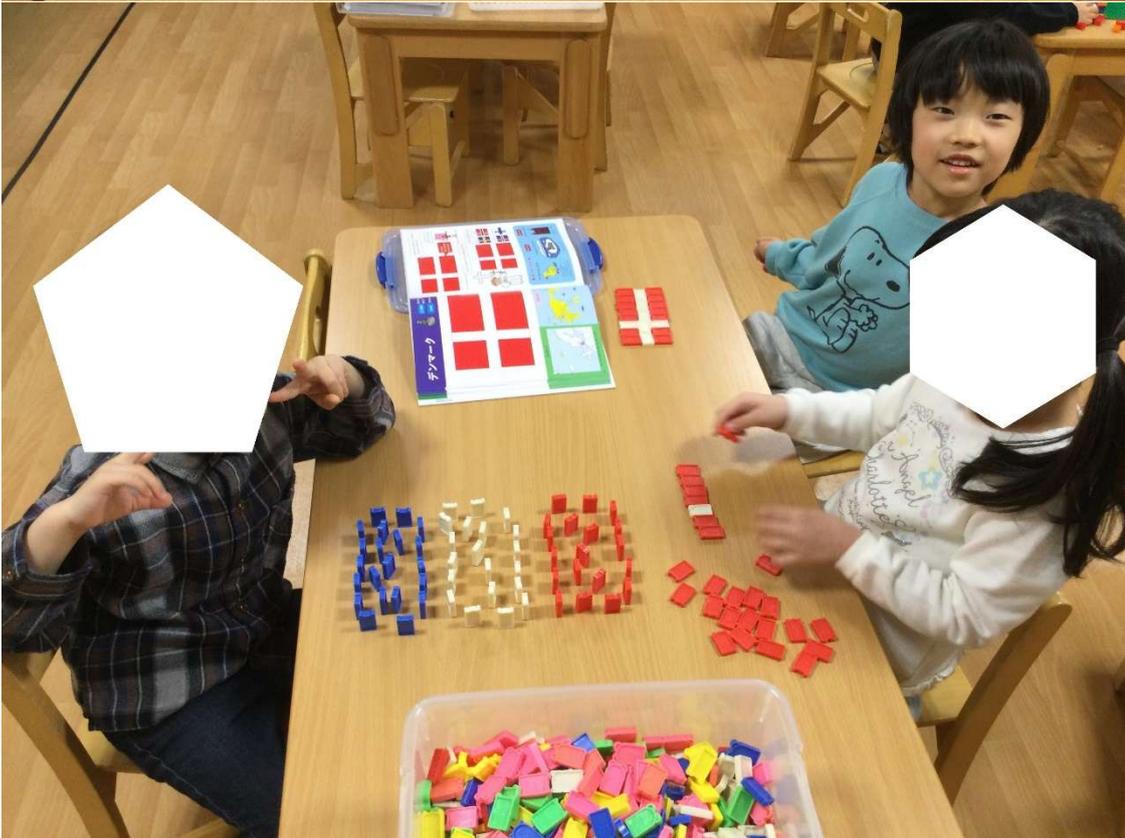
《3歳》



《4歳》



《5歳》







# とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都大田区池上 8 丁目 1 番 3 号
園名	アスク池上保育園

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

楽器

<テーマの設定理由>

日常的に製作を楽しんでいるので、自分たちで楽器の製作を試みるなど活動の広がりを楽しめそうだと考えたため。

## 2. 活動スケジュール

11 月から 3 月まで行い、月に 1 回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする。

11 月：オノマトペってなんだろう・オノマトペを見つけよう

12 月：音が鳴るの何でだろう・どんな音になるのかな？

1 月：室内で音が鳴るものを探してみよう・音と振動について

2 月：楽器を分類分けしてみよう

3 月：音楽に合わせて自分で作った楽器を演奏してみよう

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・身の回りのもの (ペットボトル・紙皿・ざる・とけい等) . . .

身近なものを使って音を鳴らす活動などで、音の違いを比較したり、音の鳴る仕組みを探求するために使用した。

・楽器 (太鼓・鈴・トライアングル等) . . . 様々な楽器の音の鳴る仕組みや分類分けする際に使用した。

・手作り楽器 . . . 音の鳴る仕組みを理解したうえで、楽器を作る楽しさを味わったり、分類分けする活動の際に使用した。

・音の絵本『おとがいっぱい』 . . . 絵本の読み聞かせを通し、一緒に声に出してみることで様々な場面・気持ち・動きなどをオノマトペで表現することを楽しんだ。子どもたちからも絵本の中に出てくるオノマトペ以外の表現も色々でてきた。

## 4. 探究活動の実践

### 【3歳児実施分】

**問いを考える：** オノマトベって何だろう？という問いかけからはじまり、子どもたちは頭の中が【？】マークでいっぱいでしたが、講師の【オノマトベビンゴ】使い、導入をしてもらおうと次々に思い浮かんだオノマトペを伝え始める。オノマトベビンゴを活用し、どんな音で、どんな場所で聞けるのか、仮説を立てている。例) 救急車は 音：ピーポーピーポー どこで聞けるか：屋上、病院 etc..

時計は 音：カチカチ、コチコチ どこで聞けるか：部屋、先生の時計、iPad etc..

仮説を立てたものを戸外活動や日常の中で耳を澄ませる。

結果として例) 救急車は 音：ピーポー、ウー どこで聞けるか：屋上、2階のトイレの窓 etc..

時計は 音：カチン、カタツカタツ どこで聞けるか：部屋、iPad と腕時計は聞こえない

結果が出た。

講師導入のもと音が鳴る原理が分かるように実際に奏でながら取り組み、興味関心を持てるようにしている。音が鳴る原理をトライアングルやタンバリンなどを使用し、揺れている様子を目視や触覚を通して揺れていることが分かる。仮説として【揺れると音が鳴る】のか検証を行う。揺れるものを話し合い、屋上のフェンスや床、公園に自生する草花など揺らし、様子を観察する。揺れた時に聞こえる音をオノマトペで表現する。例) 草花は風に揺れると「しゃっー」「さららー」と表現する。

**探究活動の様子：** オノマトベって何だろう？という問いかけからはじまり、子どもたちは頭の中が【？】マークでいっぱいでした。講師や保育者の問いかけを繰り返し行う事で理解し始める。理解ができることでますます探求する様子が見られる。特に【オノマトベビンゴ】を使用したオノマトペ考察は子どもたちが考えている様子が多くあった。

例) 包丁とまな板 音：とんとん、ちょきちょき 場所：調理室、ラーメン屋 etc..

と考察をする。実際に音を聞きに行く

包丁とまな板 音：こんこん（リズムが速い）ざくざく 場所：キッチン、保育園のおままごと

予想と合致することや予想外の答えが見つかる。探求することで気づけた。また、「だいこんは早く切ってたよ」「白菜はゆっくり」と自宅で聞いた切り方で音の変化があることを知らせる。

講師導入のもと音が鳴る原理が分かるように実際に奏でながら取り組み、興味関心を持てるようにしている。音が鳴る原理をトライアングルやタンバリンなどを使用し、揺れている様子を目視や触覚を通して揺れていることが分かる。

はじめは感じ取れず、「？」でしたが、触り方や見方を変更していくと揺れている様子に気づく。クラスでの戸外活動時に「先生、葉っぱが揺れて音がなっている」と気づき、知らせる。風邪で吹かれ、草花が揺れる様子を見て「いま、風で揺れて『しゃっー』『さららー』って聞こえたよ」と観察してオノマトペを使って表現する。他にも屋上のフェンスを手で撫でたり、引っ張ってみたりする様子があり、音が鳴ると「でゆるるーって横に動くよ」と何度も手でひっぱったり、手のひらで撫でたりして動きや後の様子を観察しています。音が鳴る仕組みを視覚的にも理解し始める。

その後は楽器を使い、分類分けをしたのち、講師が奏でるピアノの伴奏に合わせて全員で楽器を鳴らして楽しんだ。

**ふりかえり（保育士の気づき）：**

オノマトペの理解以降、探求する気持ちが深まり、園内外でも知識を得ようとする様子が見られた。子どもたちが知りたい・なんでだろう？などなどの探求意欲が備わり、自然と活動を深めている様子に成長を感じている。時にオノマトペの表現は一人ひとり豊かで様々な聞こえ方を知ることができた。

### 【4歳児実施分】

**問いを考える：**『オノマトペって何だろう？』をテーマに、講師と一緒にオノマトペについて考える。聞きなれぬ音がなく、始めは「わからない」「きいたことない」と話す子が多かったが、『音』と関係していることが分かると身近な音を探すことに興味を持っていた。『床や壁、玩具など何でもいいから叩いてみよう』『どんな音がする？』と問いかけることで自然とオノマトペに繋がり、理解する様子が見られた。オノマトペから音に着目し、『音ってどうやって鳴るんだろう？』と音の仕組みを一緒に考える活動も行った。『これは何という楽器か分かるかな？』『楽器には種類があるんだよ』と、実際に自分たちで楽器に触れることで興味、関心を持っていた。

**探究活動の様子：**室内だけでなく戸外にも探究しに行き、『オノマトペビンゴ』を使ってどんな音を見つけたのか絵や文字で表現していった。「犬は『わんわん』っていったよ」「車は本当に『ぶーん』って音がするんだね」と子ども同士で話し合いながら取り組んでいた。「もっといろんなオノマトペがあるかもしれない」と園内探索も行い、水筒の音、事務所のドアの音、消火器の音…と身近なオノマトペも見つけて楽しむ姿が見られた。

オノマトペから音についても関心を持ち、同じ物でも触れ方によって音の鳴り方が違うことに気づく。「叩くと音がするけど、優しく撫でたら音がしないよ」と不思議そうにしていた。講師から楽器にも様々な持ち方や鳴らし方があることを教えてもらい、園にある楽器にも実際に触れる。タンバリン、カスタネット、鈴、トライアングルの中で好きな楽器を選び、保育者のピアノに合わせて楽しく触れていった。「きれいな音がする」「たのしい音がする」と、一人ひとり音の感じ方が違っていた。

**ふりかえり（保育士の気づき）：**オノマトペについて知ることによって、日常の中でも音を探したり、楽器に興味を持ったりする姿が見られるようになった。様々な感じ方や触れ方があり、子どもたちも自由に活動できてよかった。また、ピアノに合わせて演奏することで一体感が生まれ、友だちと息を合わせる楽しさも味わうことができていた。

### 【5歳児実施分】

**問いを考える：**オノマトペって何だろう？という問いかけからはじまり、室内のみならず戸外に行く際も、身近にある音に耳を傾け、みんなでオノマトペで表すことを楽しんだ。水の流れる音はオノマトペで表すとどんな音だった？と問いかけると、「水はチョロチョロだったよ」「水はドー！だよ」と同じ物でも表現の仕方が違った。同じ物なのにオノマトペが違うのはなんでだろう？と問いかけると、シンクに水が当たる強さで音が違う事に気づくなど、音の鳴る仕組みについても問いを重ねながら発展させていき、探求していった。

**探究活動の様子：**おんがくプログラムに参加したときにオノマトペについて教えてもらい、さっそく興味津々の子どもたち。保育室で見つけたオノマトペをグループごとに発表した。水道や空気清浄機に耳を傾け、扇風機の音が羽の回るスピードで音が変わることを発見したり、段ボールを叩くと「コンコン」「ドンドン」と音の違いに気づき、「段ボールに物が入っているか入っていないかで違うんだ！」と発見した子もいた。次に、紙皿や箸でどんな音がなるかな？など、ザルやボウルといった身近な物を使ってどんな音が鳴るのかみんなで予想した。「カエルの鳴き声みたい！」「これはハチかな？」と、ある生き物の音に似てると気づき、最後はブンブンやかえるのうたを講師が奏でるピアノの音に合わせて楽器を鳴らして楽しむ活動を行った。すると、自由遊び中でも音がなりそうな物を見つけると、弾いたり擦ったり音の違いや音のなる仕組みに興味をもち、コップの中にティッシュを詰めると音が変わることに気づいて、ティッシュの量を調整しながら自分なりに音階順に並べている子もいた。その後、音楽講師から、振動して音が鳴る楽器、電気を利用して鳴る楽器、膜鳴楽器など音の鳴り方に種類があることを教えてもらい、実際に、さまざまな楽器に触れ、振動を感じながら音を鳴らすことを楽しんだ。子どもたちが好きなラキューで楽器作りを行い、ラキューで長い筒を作り、細かいラキューを入れて上下させながら音を鳴らしていた子がいた。すると、短い円柱を作った友達も隣に来て音を鳴らしていると、「あれ？音の高さが違う何でだろう」「長さが違うからじゃない？」「音の大きさも違

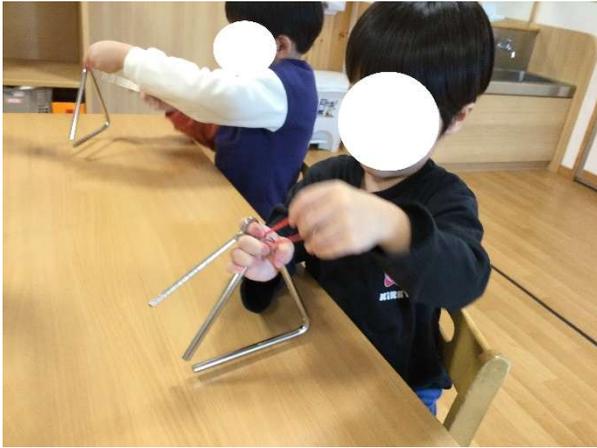
うかも！」「これって振動してるよね？体鳴楽器かな？」と空洞が大きいものと小さいものの差で音に高低差がうまれることを発見し、遊びのなかから自ら探求する姿も見られた。最後の活動では、楽器が鳴る仕組みを理解したうえで、身近にあるもので楽器作りを行い、作ってきた楽器を一人ひとり紹介したり音の違いを共有したり、分類分けをしたのち、講師が奏でるピアノの伴奏に合わせて全員で楽器を鳴らして楽しんだ。

**ふりかえり（保育士の気づき）**：普段の遊びの中でも楽器をつくって遊ぶ姿が見られたりと、興味関心をもって普段から探求することを楽しむ姿を見て嬉しかった。おんがくのすくわく活動を通して、オノマトペは、人によって捉え方や感じ方が違うことで人それぞれ表現の仕方が違うことを知り、普段の友達との関わりや意見を交換し合う場で、他者の考えも受け入れることが出来るようになった子が数名いて成長を感じた場面もあった。最後の活動で、楽器作りを家庭で作ってくるよう協力してもらったことで、5か月間の活動を保護の方と共有し合うことができてよかった。

### 《3歳》



《4歲》



《5歲》





# とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都大田区池上 8 丁目 1 番 3 号
園名	アスク池上保育園

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

「ボール」とは？

<テーマの設定理由>

エリアでドッジボール大会があるため、探求活動に繋がればと考えたため。

## 2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方についてこどもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てるような助言をもらった。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と体操講師で連携し合い、問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする。

《3歳》

11月：ボールとは、丸いとはなど子どもたちと疑問を一緒に考え、仮説と結果を立てながら進めていく。

12月：ボールを子どもなりに解釈し、ボールの質や中身など触れ、遊びながら活動を進めていく。

1月：ボールの中身が【空気】と分かり、空気と風の違いを検証する。

2月：ボールの性質が分かり、どの遊びにどのボールが適しているのか検証する（大きさや重さ、感触など）

3月：ボールそれぞれの特徴を理解し、その特徴を踏まえた上でオリジナルのボール遊びを作り、遊ぶ。

《4歳》

11月：大きさの違うボールに触れ、感触の違いを知る。

12月：様々なボールの投げ方、蹴り方の違いを比べてみる。

1月：ボールは何でできているのかを知り、【空気】について考えてみる。

2月：グループの友達とボールを使った新しい遊びを考える。

3月：考えた遊びを実践し、自分たちでルールを展開していく。

《5歳》

11月：投げる、蹴るなど様々な動作をするには、どんなボールが適しているかを考える。

12月：動きに適したボールを選んでみよう

1月：ボールの素材について・ボールを使った遊びを考えてみよう（体操講師と）

2月：ボールを使った遊びを考えよう（グループ活動）

3月：自分たちで考えたボール遊びを実践し探求してみよう

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ボール（複数）・・・様々な大きさや素材のボールを用意し、それぞれの特徴を捉えたり、比較を行うために使用。（ピンポン玉・ソフトボール・キャンディーボール  
ドッチボール・サッカーボール・風船ボール  
イガイガボール）
- ・ホワイトボード・・・子どもたちの考えや気づきを書き出しながら、全員で共有するために使用。
- ・サーキュレーターや扇風機、うちわなどなど 風を起こす機械や道具を使い、風の仕組みを知る。
- ・サッカーゴール（4歳）・・・ボールを蹴って使う遊びを考える際に使用。
- ・ボール競技の本・・・世界でボールを使った競技はどれだけあるのかや、どんな用途で（5歳のみ使用）使われているか知ったり、知識を深めるために使用。
- ・手作りバット（5歳のみ使用）・・・自分たちで考えたボール遊びで、ボールを打つために使用。

### 4. 探究活動の実践

#### 【3歳児実施分】

**問いを考える：** ボールってなんだろう？という問いから遊びを中心に経験したことを話し合いの場で共有する。

- ① ボールとは？という問いに言葉で説明が出来ずにいたが、ペンを使い、絵で表現することで説明をする。「ボールは丸いよ」と絵で表現出来たことでボールの特徴を表現し始める。新たに「丸い」という問いに子どもたちが着目し考える。丸（テープや皿、ドーナッツなど）と丸（ボール）は同じ丸なのに違うと気づいた。比較して運動で使うものがボールと結論を出した。
- ② ボールの比較し、弾み方に着目する。ボールが弾むことに疑問を持ち、考える。素材に触れて中身を職員や家族に聞き答えを得る。中身が空気と知る。その後、小グループのディスカッションの中で「浮くって水の上に浮くもあるよね」「ボールが浮く（空を舞う）」浮き方の違いに気づく。また、空気入れを使い、ボールを膨らませる様子や空気入れから出てくるものを肌に触れると「風が来る」と子どもたちは表現する。空気と風について新たにディスカッションする。風を感じられるようにサーキュレーターや扇風機、うちわなど使い、風感じることで子どもたちなりに考えて「空気が当たっている」ことに気づけた。「風は空気で。空気は風」と結論付ける。
- ③ どのボールがボール遊びに向いているのか考える。実際にそれぞれある遊びの中に様々なボールを近い、遊びを体験して向き不向きをきめる。
- ④ ボールの特徴を理解後、自分たちでオリジナルのボール遊びを考えた。子どもたちに問い、試し、話し合い、ルールを決めて遊びを完成させる。

**探究活動の様子：** 年上児がドッチボールを中心にボール遊びをしており、興味関心を強く持っていた。

- ① ボールに触れながらそれぞれの特徴を言葉にしている。丸（円）と球が似ていることに気づき、園内にある玩具やテープ、ボールを見比べている。見比べていくことで違いが分かり、運動で使うものがボールと結論を出した。少人数のディスカッションを繰り返し、ボールの種類を上げ、見て、触れて行く中で「固い」「柔らかい」「重い」「軽い」などボールの特徴に気づく。屋上で弾ませるとそれぞれ違う動きに気づき、様子を観察している。
- ② 空気入れから出てくる空気を「風がでてきた」と表現している。風と空気違いを理解出来るように道具を使い、探求活動を深めていく。実際に感じることで子どもたちは楽しさと仮説や予想を立てることが増えている。例「風の中に水があるのかな？」「空気が跳んでくるのかな？」など。

③ドッジボールやサッカーを中心に遊びボールの向き不向きを体験して比べる。

ピンポン玉           ：サッカー ×→小さくて蹴りづらい。ゴールの後ろに行ってしまう。

                              ドッジボール ×→小さい。投げづらい。飛んできても見えない。

キャンディーボール：サッカー○→遠くに蹴れる。柔らかいから当たっても痛くない。

                              ドッジボール ○→投げやすい。当たっても痛くない。

ソフトボール       ：サッカー △→当たると早く転がる。小さいから足に当たらない。

                              ドッジボール △→投げやすい。ボールが速く跳んでくるかキャッチできない。

サッカーボール     ：サッカー ○→大きいから蹴りやすい。

風船ボール         ：サッカー○→大きくて柔らかい。面白い。

                              ：ドッジボール○→当たっても痛くない。大きいボールだと楽しい。

各ボールを使い、比較をして検証を行う。

④ボールの理解を深めたためオリジナルのボールを使った遊びを考える。

絵で表すことができないため、玩具を使い表現する。職員を介して子ども同士話し合い、ボールの数や大きさ、ゴールの数など話し合い遊びの環境を作る。環境を作った後は室内で実際に遊んでみる。遊びの中で「ボールを増やす」「ゴールを減らす」など見直しを行い、遊びのルールを整備し、遊びを完成させる。

**ふりかえり（保育士の気づき）**：ボールというテーマをもとに探求活動を深めていく中で子どもたち一人ひとりの声を聞き、アイデアを出す体験を増やした。子どもたちが考える、予想することで【考える】力が身についた。

例に丸と球の違いは関心を持ったところに視点を当てる。

丸という表現でボールと皿テープなど該当するが、違う事に気づいて「なぜ?」「丸なのに違う」と表現する。大人として当たり前と思う事が子どもたちにとっては新しい発見で疑問に思い、考え、答えに近づこうとする姿が見られてすくわくを介して考える力が身についたと実感した。

この経験を活かし子どもたちに考えるきっかけになるような保育を進めていけるように精進していく。

#### 【4歳児実施分】

**問いを考える：**『ボールってなんだろう？』をテーマに考える。丸い、やわらかい、かたい、と形や感触に興味を示す子が多かった。感触を知ることから、素材の違いにも気づき、講師や担任と共有していった。ボールの中に空気が入っていることが分かるが、『空気って何だろう？』の問いには難しそうにする様子があった。形や感触に興味を持つ子が多いことから、様々なボールを使い『それぞれのボールでどんな遊びができるか』に着目し、自由に遊びを考えることにする。考えた遊びは室内・屋上で実践し、子どもたち自身でルールを加えたり、展開させたりできるように促した。

**探究活動の様子：**様々なボールに触れ、感触や素材に興味を示す。体を動かすことが好きな子が多く、実際に投げたり、蹴ったりしながら探究していった。室内ではグループごとに違うボール（ピンポン玉、キャンディーボール、イガイガボール）を使い、子ども同士で話し合いながら新しい遊びを考える様子があった。アイデアがたくさん出てくる子もいれば、周りの真似をしながら取り組む子もいた。それぞれ考えた遊びを保育者がホワイトボードに書き出し、共有することによって「やってみたい！」「こういうルールはどう？」と子ども同士で展開していた。屋上では投げるだけでなく、蹴る遊びにも着目していった。サッカーボールとゴールを用意し、距離や蹴り方を試行錯誤しながら、「どうやったらボールが真っ直ぐ進むか」「どうやったらゴールが決められるか」を考えていた。

**ふりかえり（保育士の気づき）：**言葉で話し合いを進めるより、実際にボールに触れ、いろいろと試していくことで気づきが生まれていくのを感じた。輪の中心となってアイデアを出したり、ルールを提案したりする子は限られてくるが、「それいいね」「こうしていくのはどうかな」と認め合い、前向きに取り組んでいく姿が見られた。子どもたち自ら遊びの中にゲーム性を持たせ、ルールを決めていくことで自然と譲り合う気持ちが芽生えていた。

#### 【5歳児実施分】

**問いを考える：**ボールってなんだろう？という問いから、ボールの形の違いや動作、種類について着目し気づいたことを共有し合った。また、遠くに投げるにはどんなボールがいいかな？ゴムのボールの弾み方に違いはあるかな？と様々なボールの特徴を知ったうえで実際に投げたり比較しながら素材やボールの特徴にも着目して探求を行う。子どもたちの興味に合わせた問いかけをくり返ししながら、最後にどんなボールを使ったらいいか、素材や特性にも注目しながら自分たちで運動遊びを考えてみる？と問いかけた。自分たちで遊びを考案して実践する楽しさを味わえるような問いかけを重ねていった。

**探究活動の様子：**ドッジボールや運動遊びが好きなクラスだったため、ボールへの興味が強く、意欲的に参加していた。投げる動作に適したボールは何かを実際に色んなボールを投げてみて理由を探求すると、「小さいと握りやすいから投げやすいね！」「重たいより軽い方が投げやすいけど、遠くまでは飛ばないな」など、気づきを共有し合った。転がす・あてる・浮かす・バウンドさせるなど比較していく中で、布のボールは跳ねない。跳ねるボールはゴムでできていることに気づいた。また、ゴムでできているボールでも跳ね方が違う事に気づく。その違いは、ゴムの量やボールの中の空気の量、中が空洞かどうかの違いであると見解した。一人の子が自由遊びの際に、輪ゴムでボールを作って遊んでいた姿から、グループごとに実際に輪ゴムでボールを作ってゴムの量を変え比較しながら考察していった。ボールの特徴を理解した子どもたちは、グループごとに分かれてボールを使った運動遊びを考えることに挑戦した。①グループは、的当てのようなオリジナルゲームを考案し、的当てをするには、ボールの大きさに注目して難易度をあげる工夫を行う。②グループは、野球に似たゲームを考え、ルールや人数など何度も話し合って決めていき、どのボールが一番遠くに飛ばせるか、バットに当てやすいかを打ち比べして、使用するボールを決めた。③チームは、リフティングと手を使ったゲームにしたい子がおり、結果2つの動作を組み合わせたゲームを考えた。各グループともボールの特性を理解しそれぞれの遊びに適したボールを選ぶことができ、みんなで3つの運動遊びを実践しながら、気づいたことは、都度話し合いを重ね、自分たちでルールを改定したりと活動を展開しながら楽しんでいった。

ふりかえり（保育士の気づき）：さいごの活動で、自分たちでボールを使った運動遊びを考える際に、ボールに触れなくても、「遠くまで飛ばしたいからゴムのボールで大きめのボールを使うのはどうかな」「なるべく軽いボールだと落ちてくるスピードがゆっくりだよ」と言った声が聞こえてきて、いままでの探求してきた活動が知識として身につけていることを実感した。グループ活動での決め事は、話しがうまくまとまらないときに、担当が他グループの援助をしていたため、すぐに助けを求めているグループの話し合いに入ってあげられず十分に援助しきれないこともあったため、他職員に手伝ってもらったり一斉の時間でなく、グループごとに順番に話し合いを行うなどして、こどもたちの声を拾いながらより探求していけるような環境を整えると良かった。

### 《3歳》



←球 と 丸→





《4歳》



《5歳》

